

第三号 会津会工会報 総記 会号

発行所

福島県会津若松市
徒之町1の37

発行人 大竹 巖



母校々舎の麦遷

校歌

嶺は秀づる

磐梯山

水は湛ふる

猪苗代

ふぞ乾坤

秀麗の

精気鐘り

成る処



現 校 舎



昭和14年から昭和40年までの母校



ご挨拶

会津会工会長

大竹 巖

朝夕冷気が肌に感ずる季節となり、会津の山々が紅葉に包まれる日もそう遠くはないでしょう。昨年会津会工会が発足してから早や一ヶ月が過ぎ去り、本年は東山温泉愛友ホテルで第二回の総会を開催できる運びとなったことは喜ばしい限り

りで会員各位と共に拍手を送るものです。発足以来、会の運営も順調で新春懇談会、役員会、会報発行などの行事にも同窓生諸氏のご協力、ご支援が得られ、日を追って本会の発展があらわれつつあります。

第二回総会の出席者も現在事務局で調査しておりますが、昨年の参加者をはるかにオーバーしております。このような現状から本会の運営もようやく軌道にのり、今後ますます伸展して

ゆくものと確信をもつものであります。不肖私も若松会工会長から会津会工会長として長い間皆様のご支援を頂いて参りましたが、二、三年前より健康をそこない、会務をつかさどることに困難を感じるようになりました。このような状態ですの

で会長辞任を再三にわたり役員会に申し入れを行いましたが役員各位に強く遺留をすすめられ現在に至ったものです。しかし最近健康がすぐれず、役員会への出席も困難になりました。出務も困難になりました。各各位のご期待にそむくし訳なく思います。第二回総会を期に会長職の任をしりぞき、後任の方に会発展へのご尽力をお願いすることとし、役員会へこの旨を申し上げ、次期会長の選任を

お願いしました。私がおよばなかった同窓会の使命をぜひ遂行して頂くよう念ずるものであります。数年後には主として同窓生が支援させていただきます。



創立から昭和14年までの母校

ご挨拶

会津工業高等学校長

小森 五 良



同窓生の皆さんにはお元気でそれぞれの職場で活躍のこととご推察申し上げます。このたびは、会津会工会会報第三号が発行され、まことに同慶に堪えません。関係者のご努力に對し心から敬意を表します。さて、母校も明治三十五年九月に県より創立の認可を受けて以来満七十七年を迎えました。人間にたとえれば喜寿の年を迎えたわけでありましてまことにめでたい限りであります。母校も皆さんの在校中は大きく変わりました。昔の面影を残す木造の建物も数えるほどしかなく、少なくなり、今年には昨年同窓会の皆様のご協力をいたいて、本校の施設となった旧会津工芸試験場跡に格技場を建築中であります。完成しま

したら現在松江講堂で指導してあります。剣道をこころで実施することになっており、生徒諸君も一日も早い完成を心待ちにしております。また、三年の諸君は十月一日よりの就職試験開始期を前にして、皆一生懸命で勉強に励んでおりますが、今年度の求人数は昨年などに比べ二、三割も多く、生徒にとつてまことに嬉しい限りであります。最近の本校生は、会津の高校進学率が九四％という高い進学率のため、能力、適性・進路等あらゆる面で非常に多様化しております。従って昔と違って教科指導以上に生活指導や生徒の部の活動の指導に力を入ねなければならなくなり、先生方の苦勞も非常に大変な状況で、本校生は他校に比べて部活動も非常に活発であり、スポーツでは県下屈指の立派な成績をあげて学校の名声を上げておることとは申し上げるまでもありません。さらに文化関係の面でも常に入賞入選している美術部をはじめ、各部に亘って立派な活躍をしております。しかもこのことが本校教育の目標である人間形成に寄与していることは申しあげるまでもありません。

どうか、先輩諸君におかれましては、現在の生活と仕事を通して、昔通された母校に對し感ずること、またご要望などありましたら是非ご意見などお寄せ下さるようお願いいたします。と健康並びに会津会工会の益々のご発展をお祈りしまして御筆します。

15
5
10
28
7

ご挨拶

幹事長 山内清司

全会津会工会の各位には、ますますご清栄のことと大々慶に存じます。日頃は何かとご協力をお願いして厚くお礼を申し上げます。昨年十月十五日同窓各位のご賛同を得て、発展的に全会津を一九とした会津会工会が発足して、早や一年が経ちました。切角まゝ過ぎてまいりました母校の所在地である地区会工会でありますので、今後更に強固なものにし、充実をはかろうとてゆきたいと私どもも念願いたしておりますので、各位のご協力とご鞭撻を切にお願い申し上げます。第一回総会後における会務の報告については、第二号にくわしく記載いたしましたので、その後のことについてご報告申し上げます。去る七月十一日、萬花楼におきまして役員会を開催いたしました。役員会側より学校長、教頭、事務長さん、役員の方々二十六名ご出席いただきました。席上総会の日程、会報第三号の発行について確認し、又他地区会工会の現況からして、五十嵐善正先生から東京会工会、鈴木甲意先生から東海会工会についてご報告があり、会議を終りました。今度の総会に

は、同窓会の今後のことについて重要な問題をご協議し、ご意見を伺うことにいたします。実は永年にわたり母校の発展と同窓会のため、ご尽力いただきました会長の佐藤勝次様が健康上の理由で辞任されたことをうけたまわっております。又、当会津会工会の会長まではと強く留任をお願いしましたが、健康上の理由でもありご意志が強く、お願いすることがむずかしいようでございます。而會長さんの永年にわたるご功績に對し、心から敬意と感謝を申し上げ、今後とも同窓会のためにお力添えをお願いし、ご健康であられますようお願い申し上げます。なかなかな各地区の方々とお話をする機会がありませんので、総会の前日には、ご招待申し上げました各地区の方々との諸問題について、ご協議をする時間をつくりました。総会には多数ご出席いただき、円満裡に善処してゆき度い所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。次に開催のためのポスター、立看板も各職域関係

並びに同窓各位のご賛同を得て、市内外各所に掲示することができました。厚く御礼申し上げます。会報第三号には、各科並びに生徒会活動の様子を記載いたしましたので、母校の現況をお知りいただきましてます。まずの隆盛を願ひ、何かとご指導、ご鞭撻をいただければ幸と存じます。次に朗報をお知らせいたします。去る八月十八日、坂下学生会会長二瓶隆男氏会員八十六名が発足いたしました。尚ににおめでとうございます。学校長はじめ、私どもも招待をいただきまして盛会でございました。今後、ますますのご発展をお祈り申し上げます。このように、各地の会工会が結束し相互に親睦をはかり、活動の充実ははかることが同総会の発展になり、ひいては母校の隆盛につながることを強調いたしたいと思ひます。まだまだ、会津会工会が発足したことをお知りになっていない方々も多数おられると思ひます。各位に機会あるごとに周知徹底をお願いし、同窓生各位のご健康とご活躍を祈り合せて、会津会工会のますますの発展を期待してご挨拶といたします。

（十月五日記）

建設進む格技場



昭和五十四年十月二十日現在

則會工會津會

制定 昭 53・10・15

現代

高校への進学率が、九
%に達した本県の高校教
も多様化現象による多く
困難な問題をかかえてい
その中で、今の高校生に

第1条 本会は会津会工と称し、事務所を母校内におく。

第2条 本会は会津工業高等学校同窓会員にして、会津地区に居住するものをもって組織する。

第3条 本会は会員相互の親睦をはかり、母校の発展に資するをもって目的とする。

第4条 本会に次の役員をおく。

会長 1名 副会長 5名 幹事長 1名
 副幹事長 若干名 幹事 若干名 監査 3名
 第5条 会長は会務を総理し、本会を代表する。会長事故あるときは副会長これを代理する。
 幹事長及び幹事は会長を補佐し、会の常務を処理する。
 第6条 会長及び副会長、幹事、並びに監査は総会において選任し、幹事長及び副幹事長は幹事の互選とする。
 役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

源 龍	顧問は総会にはかり会長がこれを依頼する。 第7条 本会は年1回定時総会を開き、随時諸集会を開催する。 第8条 本会の経費は、寄付金その他をもってこれに当てる。 第9条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。 第10条 本会の議事は、出席会員の過半数をもって決する。
----------------	--

去る九月十六日、熊本
市において沖繩県宮古島
守備隊當時の戦友会が開
催され、三十四年ぶりの
旧交を暖めた。白髪、髪
のすっかり薄くなった者
また往時のままの黒髪の人
者など、言葉も東北弁あ
り、標準語あり、九州弁
また関西弁ありと多種多
様で、楽しい一日を過こ
しました。

会工当時の級友を考え
てみますと、母校で教鞭
をとっている高杉、鈴木
(甲)、高橋(司)の各
兄、市居居住の佐藤(一)
堤、塩原、岡本組の松山
の各兄、東京在住の高木
(数)、室井の諸兄等々
多士清々の級友が、それ
ぞれの分野で活躍してい

ます。

こうした戦友また級友の活躍ぶりを見聞するにつれ、果して私自身はどうなのだろうかという疑問をもつとともに、職業に貴族なしとの言葉を信じ、私はわたくしなりの職場で精一杯働くことによって、人生の喜びをかみしめようと努力をしているものです。

私の人生訓は、旅は道づれ、世は情けといわれているとおり、いろいろなことがあり、さまざまな人との因縁、かわり合ひの中で、思いやりの心、小さな親切、人を愛する心を忘れず、ともに生きてゆける人生を送りたいものだと思つてお

ります。

武者小路実篤氏の言葉にある「天に星、地に花、人に愛、人は人、我は我、されど仲良き」を心に刻

五十に

昭16・
箭

んで……………。

職場においては、京大
会田教授の『日本人材論』
にみられる。

「人間の人格形成の

道は、正方形に内接する人間となることを選ぶか。外接する円となることを選ぶか。二つに一つしかない。諸子

して

想う

12 L卒

内栄一

すべからく後者の道を選べ

を実践すべく心懸けているのですが、なかなか思うようにならないのが

実情です。

前者は、人間の角（欠点）をなくして小さくまとまった円満型、いわゆる人生にくたびれた消極型とでもいうべきもので、後者は、あり余る欠点をカバーして、なお衆人を魅了する西郷南州型の人格を意味するものであると思います。

また、博士はこうも言っています。

「長所の反面が短所であるから、短所にくよくよしてこれを矯めるような努力などはせず、まず自分の長所を見極めて、これを大いに伸ばし、個性の發揮に努めるような人間でなければ、未来社会のリーダーたり得ない。」

と、「規格品である秀才」よりも「規格品でないためにどこかポイントのほずれている感じのする本物」。私は、五十台の半ばを過ぎ、ようやく後者のような人生のあることに気がつき悔んでいるものです。

後輩諸君に、一日もはやく後者の道を選び、それぞれの職場で持てる人を十二分に発揮されんことを望み、拙文をかえりみずあえて掲載させて頂いた次第です。

末尾ではありますが、母校の栄光と、会員各位の益々のご隆昌を祈念いたします。

昭54・9・26

任無感動のしらせムー
が囂漫してきているとい
ことである。教える側か
見ると、まことに歯がゆ
極みだと言う。現在の高
生を含めた子どもたちが
生活に意欲を燃やさない
いうのは、戦後の豊かな
会の出現とともににはま
たとする見方もある。昔
から戦後の十年頃までは、
が国は貧乏な国で寸暇を
しみながら働かなければ
食っていくことができな
ったのである。そして勤
は美德であり、努力は人
生存のための必要条件で
、精神的価値の中心とな
り、少しでもよりよい生
活をしようとするのが、昔
から人びとの中に生
きつづけ、受け継が
れ、生き甲斐と目的を構

会の中では、学校で面白い勉強に苦勞をすることはない勉強に苦勞をすることはないと、子どもたちは思ふようにするのも一理がある。或る教育学者は論じている。

学校も情報化社会の渦中に混乱を極め、ぼう大な知識情報をより大量に、より速やかに子どもたちと与へることが教育の最高の方法と考えがちで、その知識情報をいかに量的に獲得したかを問うことが人間評価の方法であり、人間の価値を定める唯一の道だとの考へが一般化している。したがって、子どもたちの欲求との間にずれが生じ、無気力・無関心に一そう拍車をかける結果を招いているようである。

教育の雰囲気をとらえさせることである。だから教師は、チョークを持って黒板にものを書いて、生徒にものを教えるだけでなく、教師自身の行動もまた生徒に教えるを垂れることになるのである。従って、教師の個人的な生活行動においてもまた公的な生活においても無責任な行為をすることはできない。もしそれをあやうで行うとしたら、もはや教師としての資格を喪失したものだということができると言いきっている。また「口」本社会に浮っている空虚さよいものを投げ捨ててしまふ日本人」と、現代社会を詳し。最もよく学びとった人間は、必ずしも経済的に豊かである必要はない。ま

まうといった傾向が見られる。日本が第二次大戦によって捨て去ってしまった。あとに残った大きな精神的空白を埋めないままに、放置しておいたということに大きなあやまりがあった。現在の日本が否定している古い日本の道徳を再発すること、また必要なものであるし、かつ日本人がもっていた高い道徳感情や倫理感・自尊心をもう一度、よく考え直してみる必要があるのではなからうかと結んでいる。これらのことは、今後の教育問題を考える上で、一つの参考意見として傾聴すべき点であろうと思います。

ご挨拶

幹事

お願い申し上げる次第でございます。第一回総会後における会務の報告については、第二号にくわしく記載いたしましたので、その後のことについてご報告申し上げます。去る七月十一日、萬花楼におきまして役員会を開催いたしました。学校側より学校長、教頭、事務長さん、役員の方たち二十六名ご出席いただきました。席工総会の日程、会報第三号の発行について確認し、又他地区会工会の現況について、五十嵐善正先生から東京会工会、鈴木甲意先生から東海会工会、佐々木報告があり、会議を終りました。今度の総会に

いようでございます。而會長さんの永年にわたるご功績に対し、心から敬意と感謝を申し上げ、今後とも同窓会のためにお力添えをお願いいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。なかなか各地区の方々とお話をする機会がありませんので、総会の前日には、ご招待申し上げました各地区の方々と諸問題について、ご協議をする時間をつくりました。総会には多数ご出席いただき、円満裡に善処してゆき度い所存でございますのでよろしくお願ひ申し上げます。次に開催のためのポスター、立看板も各職域関係

待をいただきました。誠に盛会でございます。今後、ますますのご発展をお祈り申し上げます。このように、各地の会工工会が結束して相互に親睦をはかり、活動の充実はかかることが同総会の発展になり、ひいては母校の隆盛につながることを強調したいと思います。

まだまだ、会津会工工会が発足したことをお知りになっていない方々も多数おられると思います。各位に機会あるごとに周知徹底をお願いし、同窓生各位のご健康とご活躍を祈り合せて、会津会工工会のますますの発展を期待してご挨拶といたします。

(十月五日記)

昭和



五十四年十月二十日現在

津会

第1条 本会は会
第2条 本会は会
するもの
第3条 本会は会
って目的
第4条 本会に次

会長
 副幹事
 第5条 会長は会長
 は副会長
 幹事長及
 第6条 会長及び
 幹事長及
 役員の任

源
龍

それが、精神的な貴族なのである。この点の教育が、日本人には戦後の欠けているところであると指摘している。現在の日本には、戦前に行われた数多くの考え方は

顧問は総
第7条 本会は年
第8条 本会の経
第9条 本会の会
て終わる。
第10条 本会の議

司 清 内

全会津会工会の各位には、ますますご清栄のことと心から慶に存じます。日頃は何かとご協力を賜わりまして厚く御礼を申し上げます。昨年十月十五日同窓各位のご賛同を得て、発展的に全会津を一元とした会津会工会が発足して、早や一年が経過いたしました。切角ましましてまいりました母校の所在地である地区会工会でもありますので、今後更に強固なものにし、充実をはかっていますゆえに私どもは感謝いたしておりますので、各

は、同窓会の今後のことについて重要な問題をご協議し、ご意見をお聞きすることになります。実は永年にわたり母校の発展と同窓会のため、ご尽力いただきました会長の佐藤勝次様が健康上の理由で辞任されました。又、当会津会工会の会長大竹厳様も辞任の申し出がありました。当会としても、母校の八十年間記念までは強く留任をお願いしましたが、健康上の理由でもありご意志が強く、

並びに同窓各位のご賛同を得て、市内外各所に掲示することができました。厚く御礼申し上げます。会報第三号には、各科並びに生徒会活動の様子を記載いたしましたので、母校の現況をお知りいただきましてますますの隆盛を願ひ、何かにご指導、ご鞭撻をいただければ幸と存じます。次に、朗報をお知らせいたします。去る八月十八日、坂下会工学会会長二瓶隆男氏会員八十六名が発足いたしました。尚、六名におめでとうございます。



建設進む格技場

会工会会則

制定 昭 53・10・15

会工会と称し、事務所を母校内におく。
工業高等学校同窓会員にして、会津地区に居住
もって組織する。
相互の親睦をはかり、母校の発展に資するをも
する。
役員をおく。

若千名 幹幹事 若干名 監査 3名
を総理し、本会を代表する。会長事故あるとき
を代理する。
幹事は会長を補佐し、会の常務を処理する。
会長、幹事、並びに監査は総会において選任し
副幹事長は幹事の互選とする。
は2年とする。ただし再任を妨げない。

にはかり会長がこれを依頼する。

回定時総会を開き、随時諸集会を開催する。

は、寄付金その他をもってこれに当てる。

年度は、4月1日に始まり翌年3月31日をもって

は、出席会員の過半数をもって決する。

(continued)

100

地域会工会だより

東京会工会の近況について

会長 井上真市

昨秋の会津会工会の発足は、まことに時宜に適い、むしろ遅きに失した感すらいたしますが、私共も常々地元会工会の結束発展こそが全国組織の維持交流に欠くことの出来ない問題を考えております。このたび第三号会報発行に祝意を表明すると共に、東京会工会の近況についてお知らせいたします。東京会工会創立以来、数十年の永きに亘り、当会の組織運営に献身された佐藤勝次先輩が、昨年喜寿を迎えられたのを機に会長及び会工同窓会長を辞任されました。もとより

があればご教示いただきたいと存じます。また東京会工会の年次事業は凡そ次の如くであります。

一、総会・旅行会・懇親会などの定時又は随時開催
一、年一回の会誌・会報の発行
一、役員会・幹事会の随時開催
一、秋の芋煮会の開催(本年度は一〇〇名単位)
一、その他

以上、東京会工会の近況についてお知らせしました。今後会津会工会の諸兄と密接に交流し、母校の発展と会員相互の親睦に資したいと存じます。

※なお佐藤前会長は、名誉会長として、ご助力願っております。

会津会工会

総会ムードもり上る

会津会工会の開催については同窓職員、在校生の手により、会津全域に五〇〇枚のポスターがはられ、また会津若松市内には十ヶ所に立看板が立てられて、いやが上にも総会ムードを盛り上げている。

●期日 昭和五十四年十月二十八日(日)午前十時
●場所 会津東山温泉 愛友ホテル 会費 三五〇〇円

第2回 会津会工同窓会総会

●講演「会津藩の人づくり」
会津史学会 会長 山口孝平先生

吉田セメント 製品販売KK

坂下会工会の

設立なる

会長あいさつ

会長 二瓶隆男

本日会津会工会坂下支部の設立総会を開催するにあたり御多忙中の折にもかかわらず地元町長さんを始め学校ご当局並びに会津会工会より来賓多数ご臨席をいただきここに待ちに待った坂下支部が誕生する事となりました。

これひとえに学校ご当局並びに会津会工会の御指導と会員の皆様方の御協力のおかげで深く感謝申し上げます。

三年程前より坂下に支部を作ろうと話合ってきたが、昨年秋、佐藤前同窓会長さんより郷里の坂下に支部がないのは誠に残念に思う。是非皆さんで作ってほしいとお話もあり一段と支部設立の機運を早めます。

会津会工会

坂下支部役員

顧問		副会長		幹事		監事		事務局次長	
佐藤 菊次郎	佐藤 庄太郎	佐藤 兼雄	仙波 十郎	伊藤 順一	大塚 隆正	鈴木 悦良	佐藤 芳雄	高橋 信光	宮野 博久
佐藤 兼雄	仙波 十郎	伊藤 順一	大塚 隆正	鈴木 悦良	佐藤 芳雄	高橋 信光	宮野 博久	伊藤 芳雄	高橋 信光
会社重役	会社重役	会社重役	会社重役	会社重役	会社重役	会社重役	会社重役	会社重役	会社重役



坂下支部設立総会

祝 第二回総会

会津会工会副会長

梁取秀和

(昭和七年C卒)

会津若松市城前三一五

大竹齒科医院

院長 大竹 巖 (昭七癸卒)

会津若松市日新町
電話 七〇六八七

会津会工会顧問

新田義一

(大正八年癸業科卒)

会津若松市米代一一一五六
TEL 〇四三三七二五九〇

元福島県立会津工業高等学校校長
社団法人全国工業学校長協会名誉会員
会津 満鉄 会 会 長

菊地 巖

(昭和四年癸業科卒)
会津若松市門田町大字面川
字中島六三
TEL 〇四三三七一一八〇一

佐藤齒科医院

(昭和三二年癸業卒)

院長 佐藤 悦朗

会津坂下町新町

会津会工会総会を祝う

同窓生の企業紹介

福島県建設者登録番号(わ)第五五一号
建築設計事務所登録番号第二九五三号

山高建設工業所
代表 山内 高志

会津若松市城東町十六一五
電話 〇四三一七一二二三三

東京電力株式会社

猪苗代電力所

所長 浅賀 健次

東京電力株式会社

猪苗代電力所

会工会同窓会
会長 吉田 達

磐梯山のお酒

會津
清酒
ほまれ

ほまれ酒造株式会社

福島県会津喜多方市松山町
電話 〇四二一一一五一一

玉川機械金属株式会社

若松製作所

鶴友会 一同

(六十七名)

(有) 山洋工務店

代表 山田 洋一

(昭和三十三年建築科卒)

河沼郡河東町大字浅山字村西丙五

土木建築
設計施工 株式会社 鈴木工務店

代表取締役 鈴木 良作

会津坂下町大字白狐乙四二
TEL 〇四二八〇三四四〇
自宅 〇四二八〇四三五八

武田土建工業株式会社

取締役社長 武田 信孝

TEL 四一〇一八

福島県会津若松市住吉町一八三

吉田セメント製品販売株式会社

代表取締役 吉田 一栄

電話 七四四五五

写真撮影・カメラの御用は

(昭和十六年十二月卒)

山内写真館

会津若松市日新町12-28
電話 七二〇四二番

総合建設業

県知事許可(特一五一)第五一〇〇号

滝谷建設工業株式会社

代表取締役社長 目黒 和雄

常務取締役 目黒 幸衛

若松支店 目黒 幸衛
TEL 七三九九五
本支店 福島県大沼郡三島町大字宮下字水尻四三二
郡山出張所 福島県会津若松市米代一四二
西会津出張所 福島県耶麻郡西会津町大字野沢字祝ノ前

土木工事請負業

有限会社 横山組

代表取締役 横山 一郎

福島県大沼郡会津高田町字高田甲六五
電話 〇四二五十四一四二〇四七

福島県会津若松市一箕町

大字亀賀字村東一三三三

株式会社 成田工務店

代表取締役 成田 三郎

TEL 二一三八五



割烹

萬花楼

会津若松市
電話 (2)四五六七番代

一般土木建築設計施工

有限会社 鈴木相互建設

代表取締役 鈴木 昌明

会津坂下町大字宮古字台畑二八三二
TEL 〇四二八〇三〇七三
TEL 〇四二八二二七二七

会津若松市上町三番三号

会津ガス株式会社

取締役社長 相馬 正夫

専務取締役 梅津 正夫

会工同窓会 一同

会津若松市中町二番七八号

福島日石株式会社

代表取締役社長 磯田 政吉

副社長 林 亀三郎

TEL 七七七四

建築・設計・監理

創龍社

所長 佐藤 富士雄

会津坂下町古坂下

TEL 〇四二八〇四一四三
TEL 〇四二八〇一八七三

福島県大沼郡会津高田町字高田甲四六六

有限会社 横山鉄工所

代表取締役 横山 嘉夫

観光土産品
ギフト用品総合卸

(有) 会津クラフト

平山 恒夫 33-M

会津若松市本町八一四六
電話 七七八七四一

会津の建設に

建 友 会

会 長 佐 藤

副会長 藤

一 島 昌 雄

会 計 川 崎

正

事務局 青 山 昭 一

会 員 一 同

会津土建株式会社 取締役社長 菅 家 忠 男 TEL 6-4500・7-1764 会津若松市追手町5-36	今日の幸わせも繁栄もみなご先祖のおかげ 仏壇・仏具・神棚の専門店 豊かな心を創る 仏壇の保志 会津若松市日新町3-8 TEL 6-6121 躍進を続ける保志グループ 樹保 志 会津木工産業㈱ 樹保志卸センター ホシドラブラジル ホシセン商事㈱ 保志販売㈱	一般建築設計施工 伊藤建設工業株式会社 代表取締役 伊 東 正 福島県会津若松市門田町大字年貢町字大道西636番地 電話 7-8058番
白紙から無限のイメージを追求する フレッシュなコンサルタント 北 日 本 印 刷 社 領 歴 史 春 秋 津 本社 会津若松市門田町中野 ☎(02422)6-6222 ㊦〒965 郡山営業所 郡山市豊田町5-19(豊ビル3F) ☎(02429)33-2472 ㊦〒963	あなたは何段？最高位はどなた？ 『酒豪コンクール』開催中!! くくっ 飲めば 飲む程 豪華賞品 れれっ 安くて うまくて 雰囲気満点 たたっ ノドに自慢は「カラオケ」でナジョダシ “水商売らしくない 会工の店ここにあり” 酒亭道場 菊 地 政 司 (S16/3応化率) (小座敷も御利用下さい) 会津若松市上町8-1 (スズメ肉店南角) TEL 5-0040	有 限 会 社 八ツ橋設備工業所 〒965 会津若松市東栄町4番28号 電話 7-3925番(代表) 冷暖房・衛生・給排水・給湯・消火栓 簡易水道・浄化槽・各種管工事・設計施工
特定建設業許可 (特-53) 第5019号 許可業種 土木・建築・舗装・上・下水道施設工事 一級建築士事務所 第ワ(104)1021号 JSA認定製材工場 第L U-15184号 (秋) 秋山建設株式会社 取締役社長 秋 山 五 郎 〒965 福島県会津若松市米代1丁目4の30 ☎ 会津若松局(02422) 7-3770~3772	新しい日本の住い ミサワ住宅株式会社 手作りの木造住宅 快適な生活設計 優良宅地の供給 ◎資金作りから、土地建物までの総合住宅 本社 会津若松市南千石町4-4 (代表) 7-2089 本町展示場 会津若松市本町1-1 (02422) 8-2330 喜多方営業所 喜多方市字千刈 (02412) 2-0656 郡山営業所 郡山市並木町5-24 (0249) 34-8175	翔 き 新しい時代を造る 確かな槌音 株式会社 東條建設工業 代表取締役 東 條 秀 夫 会津若松市蚕養町9-13 TEL 5-3661(代)
給油・洗車・6ヵ月点検・民間車検・自動車保険 ゼネラル 株式会社 会津ゼネラル 本社 会津若松市門田町年貢町大道西5 TEL 7-2400	総合建設業 一級建築士事務所 JAS製材認定工場 武木建設株式会社 代表取締役 武 田 健 会津若松市町北町大字始字深町10番地 電話 5-2121 (代表)・2-5088	ふるさとの豊かなくらしに貢献する ▶クリーンエネルギー◀ 若松ガス会工同窓会 都市ガス事業部門 L・P・G販売部門 保安サービス部門 厨房器具・住宅機器部門 建築設備工事部門 石油製品・ガソリンスタンド部門 技術の若松ガス ☎8-1311(代)
静かな庭(三宅邸)に囲まれた 米 熊 旅 館 伊 藤 昭 三 福島県会津若松市栄町7-49 ☎ 02422-2-0399(代表)	日本の旅 世界の旅 国鉄承認・仙18 ST昭和ツリスト 本社 会津若松市会津若松駅前(昭和ツリストビル4階) 電話 会津若松 02422-80211(代表) 郡山支店 会津若松市清水台1の6の8(八幡プラザビル1号館3階) 電話 郡山 0249-26505(代表) 田島営業所 会津若松市田島町田島駅前 電話 田島 02416-23710(代表) 運輸大臣登録一般254号 株式会社 日本エア・ツリスト 東北支店 東北支店 会津若松市会津若松駅前(昭和ツリストビル5階) 電話 会津若松 02422-50096(代表) 郡山支店 会津若松市清水台1の6の8(八幡プラザビル1号館3階) 電話 郡山 0249-26506(代表)	躍進する 山平グループ企業 (株) 会津若松青果地方卸売市場 山平商事(株)スーパー山平 丸善石油特約店 片平石油販売(株) 東山温泉 (株)愛友ホテル 片 平 産 業 (株) 取締役会長 片 平 忠 助 本社 福島県会津若松市本町1番1号 ☎ 02422-7-3600(代) 片平石油販売・片平産業・愛友ホテル 取締役社長 片平忠正 (昭和25年卒)
伝統工芸品との ふれあいをもとめる 会津ぬり製造問屋 丹羽漆器店 取締役社長 丹 羽 登 〒965 会津若松市大町4ノ町10 ☎ 02422-5-0354(代)	技術とアイデアの一矢建設 ユニークな住いとスマートな店舗造り 若さにあふれる一矢建設へどうぞ 株式会社 一 矢 建 設 代表取締役 山 田 尚 会津若松市日新町10-40 電話 6-0018(代)	(株) 松坂屋家具販売グループ 七日町 家具のマルケン 会津若松市七日町中央 電話 7-3630 秋の婚礼家具は御旗町の松坂屋家具店で ☎(7)6624 社 長 村 松 賢 一 郎
みみどり漆器店 取締役社長 皆 川 登 会津若松市日新町8番7号 電 話 6-5001番	(K) 建築・製材 平野工務所 代表取締役 平 野 博 久 会津坂下町大字気多宮字柳田1061 TEL 02428 ③3181(代)	ふとんのことなら ふとんのフタ 藤田製綿工場 会津若松市新横町4-27 電 話 7-5034
土木建築請負業 株式会社 丸 庄 工 務 所 代表取締役 荒 川 英 世 福島県大沼郡会津高田町字水戸乙2375 TEL (02425) 4-2011	文具・事務用品・事務機・紙製品・画材用品 書籍と文具 吉 田 ス ト ア 代表取締役 吉 田 栄 治 会津若松市川原町1-9 電話 6-0123	電気工事のことなら なんでも相談 水 六 電 気 商 会 取締役社長 水 野 力 会津若松市山鹿町 電話 (02422) 6-3636

各科だより

繊維工業科 の現況

開校以来の伝統を誇る繊維工業科(旧染織科)、多くの卒業生が日本中の各分野に、いや世界の産業界の指導者として活躍しておられる様子を見聞き、今更乍ら、諸先輩の偉大さと、後に続くべき若人の育成に当る者の責任の重大さに心を引かれていた次第です。

さて当科の教育内容を充実については職員一同心を砕き努力している所ですが、県財政の都合もあり、施設においては四十四号、設備は四十号の充実という現状です。実験実習器械等についても少しづつではあり

工芸科

私達の住宅をみますと、様式、装備はますます近代化し、住宅産業は著しい進歩を遂げています。私達の豊かな生活を営むための室内空間の設計・装備・生活にうまい手を加えてくれる工芸品の創作に意欲をもつて学習しております。昭和四十八年に全国高校の殆んどがインテリア科に改称いたしました。学科名を変えずに工芸科として存続、学校の特色を活かしてあります。全国的に数少ない学科で、希少価値もあって近年求人数も多くなっております。現在進路指導にあた

窯業科

本科は先輩各位にはない人づくりを第一の目標として努力しております。本年度も先輩各位の社会での活躍が反映して求人事業所も数多く、三年生もその選択に困惑している現状であります。ただ残念なことには県外就職希望者が数少なく、優秀企業の求人にも応じられない状態です。在校生は長男、次男が多く、両親の希望もあって地元への就職希望が年を追って増加しているのを受入企業の獲得に腐心しております。

化学工学科

装置工業への変貌により工業化学・化学工学の併科として一学年につき二クラスとなり、施設、設備も単位反中心のものから単位的なものが増え、大幅に多くなり、教科内容も化学反応よりも物質収支・エネルギー収支を中心とした工学的な内容となっている。従ってより高度の資質が生徒に要求される結果となる。さらに総合的体験をさせるために二年前より粉石けん製造プラントの導入を企画申請中であり、許可されれば来年度着工となる。

機械科

今年の就職は台風一過秋晴れのように好況の波に乗ったようである。かつて日本経済界は恐慌に落ち入り就職もままならなかった時期に比べると今年は求人数が一段と増え就職に明るい見通しがたった。今更には採用を見合せていた会社から求人のために来校される方が利巧のようである。

電子科

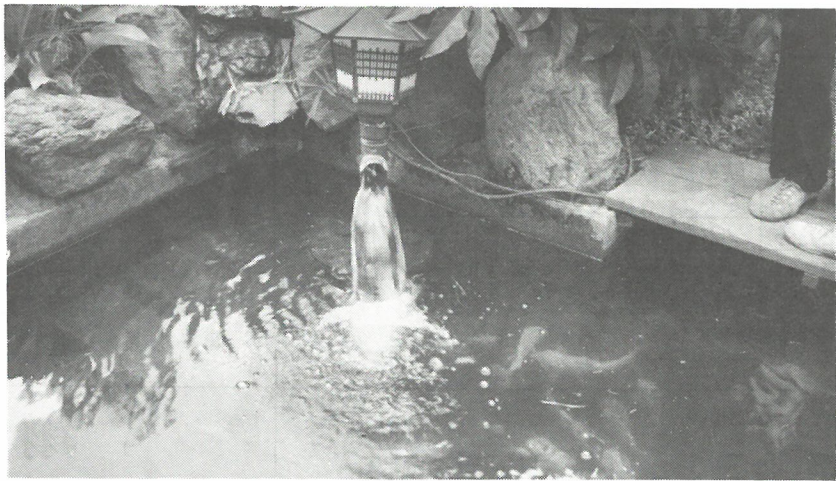
皆さんお元気ですか。技術革新、とりわけ電子入るものとして、暖かく迎えて頂きたいと思ひます。今日も朝早くから、コンピュータ室へ生徒の姿があるようです。

電気科

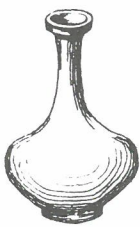
今年の電気科三年の進路希望状況を述べます。在籍三十五名のうち進学三名、(大学二、各種学校一)、公務員五名(若松市役所一、郵便局二、警察二)、公社七名(国鉄五、電々公社二)、東北電力二、東芝二、日立一、新日本製鉄一、トヨタ一、日産プリンス一、その他三名です。地元企業への他、会社を含めた公務員や東京、東北電力希望の大部分は地元希望であり、地元希望は半数を越えているのが特徴です。

建築科

建築科が昭和二十三年四月発足以来、三十周年を迎えたのは昨年であった。会津在住の同窓生の集団である「建友会」では、満三十周年を記念して今年二月十七日東山温泉「パークホテル」で盛大に祝賀会を開いた。三十年の歴史を振り返ればその道は決して平坦ではなかったと思ひます。施設・設備面の不足の時代の苦労はさて置いても、この問題は順次年次計画で整備され、解決されたが、生徒の資質面においては現時点において、全国工業高校の問題として大きなウィークポイントとなっている。かつて高度成長時代に軌を一にして建築科生徒の資質は他科を凌いで一つのピークを示した時代があった。それが今日では次第に下降を示しはじめている。この資質と学力の質は勿論であるが道徳の質も含めて定義しているが、現代の生徒の質の低下は誠に憂慮すべき状態にある。この原因は遠因、近因を問わず早急に説明されねばならない問題であり、早急な対策が施される必要がある。



環境整備事業の一環



完成になった 創立以来の陶磁器資料陳列室



各クラブのプロフィール

体育班

「陸上競技部」

伝統を築きあげた山田前監督のあとを継ぎ、本校卒業生の協力を頂き選手一同練習に励んでおります。

高校大会に於て、東北大会二名出場、うち一名が第二位、全国大会では、一五〇〇米障害で第五位入賞、本校陸上部初の入賞者となった。星君は、さらに十月に行われる宮崎国体に県代表として五〇〇〇米に出場が決まり有望視されている。現在、部員三十四名中十六名が長距離選手、特に一年生の層が厚く、今後予定されているマラソン、駅伝大会等で、伝統をけなすことなく大いに頑張りたい。

「体操部」

先輩達は、過去の大会において、すばらしい実績を残してきた。一時低迷していたが、ここ数年、又復活し、県内大会はもとより、東北・全国大会において活躍している。昨年福島県で開催された53インターハイでは、会工の新体操は、結果が、団体五位、個人総合では二位になり、会工体操部の名を全国に一段と高めることができた。今年も県

卓球部

今日もまた、気合の入った練習が続く、今年の大会でも、県ベスト4の壁を突破できなかった。

一学年五名以上部員のいる年は必ず、県8迄はゆく、あと一・二歩が足りない。ある水準まではゆくが、不動のエースが傑出しないというところか。

朝、授業前と午後三時間の部活動だが、執念に燃えた部員一同、終ってなかなか帰らず父兄や学校からお叱りをうけたりもする。あるOB、「すごいですね。これだけ気力充実してやれば、負けても悔いなしですね。」いやいやそうはいかないのです。頑張るくちや。

空手部

年々空手熱の高まる中で本校空手部も連日練習に励んでおります。

会津地方では本校以外に部活動を行っておりませんので、練習、試合等には不便を感じております。今年度の県大会戦績は、組手とも団体四位、個人三位とふるわなかったようですが、内容的には大きな収穫を見い出したと思っております。そんな中で、我々の念願がかない、高体連加入が実現したことを大きな喜びとして、増々精進してゆくべきと心掛けております。



軟式庭球部

S54年度福島県新人大会に於て、団体の部で初優勝を飾り、優勝旗が初めて登った。また、会津地区大会の新人戦でも、完全優勝成る。団体優勝、個人優勝、二位、三位、三位と全ての

賞を本校が独占した。過去の記録にもないパーフェクトぶりである。なお、今年大会で優勝出来たので、来年二月には、県代表として、東北六県大会に出場が決定し、その活躍が期待される。本校テニスコートにも、永年の夢であったフェンスの建設も決定した。



昭和54年度福島県新人大会

山岳部

山岳部は約二〇名の部員で会津の山々を中心に歩き続けております。昨年は全国高校総体の登山競技が南会津で開催され、福島県代表チームとして本校山岳部が選抜され、地元として活躍しました。

柔道部

今年の柔道部は二年生十八名、二年生・九名、三年生・五名のメンバー構成である。成績は、県総体ベスト・エイト、全会津秋季柔道大会・第三位、といふところである。本校の数員の中には、柔道経験者が七名もあり、うち、三名が同窓生であり、来たる十月八日の新人戦に向けて、部員一同、稽古に励んでいると同時に教員の指導、応援も盛んである。この熱を内部のみにとどめることなく、諸先輩方の応援も戴きたいと希望するところである。最後に、OB名簿作成中です。御連絡下さい。

バドミントン部

本年は惨敗であった。県大会四連勝を期して、徹底的練習を重ねたが、決勝で敗退、全員悔し涙を流した。個人戦でもダブルスで二位、シングルスで三位と、過去数年間、本校で独占しつづけた桶を全ての学校へ明け渡してしまった。三年生は学校、先輩等の期待を果たせなかったが、しかし、どの試合も最後迄、自分の力を信じ、精一杯のプレーをしたその姿は、見る人の感動を促した。この精進する姿は又後輩に受け継がれ、来年度以降の巻き返しのため、毎日、気合の入った練習が続いています。

水泳部の今昔

昭和二十三年戦後のスポーツ普及時代水泳は裸で金のかからないスポーツだ。という事で、設備が整ったイルムも無く喜多方高校プールを借用して生徒は定期券を買って毎週土・日通って時には附近のお寺に泊めていたという練習に励んだ。そんな恵まれた環境でも活動は活発で数多くの選手を生み出した。昭和十九年同窓会のご好意により

サッカー部

現在部員二十四名でがんばっています。会津地区では常に敵はないが、県大会では



全国に覇をとるバドミントン部

学芸班

美術（絵画）

本校の美術部は、毎年すばらしい活動実績を展開させています。昭和43年度以来、部が充実味をおび、会津美濃・県展・各種展覧会に出品し数多くの受賞者、入選者を出しています。

今年は、会津美展で受賞者2名と珍しく県展で受賞者がなかったことが印象的ですが、でも四年前から会工高独自の展覧会を学校主催で開催するなど、高校生は

「新道場落成の弓道部」

弓道部

今春、すばらしい弓道場が落成した矢先、永年会工弓道部の顧問として指導され輝かしい実績をあげてこられた玄永先生が転任され、素人顧問二人で後を引継いだ弓道部です。心配をよそに伝統の強みか春からの各種大会に活躍し、団体戦は涙を吞みましたが、個人戦は昨年に続き全国大会に出場健闘して本場へ。

美術（書道）

小学生は勿論中学生の中にも結構書写を勉強しているものが多いが本校では毎年五・八名位の小じんまり連合会（会工・若商・若女）の連合会による連合展（市公民館）に出品し、市内高校生は書道祭典ともいふべき行事を目標に頑張っている。



美術同好の仲間たち

泉銘、王羲之の蘭亭叙、七帖などである。年に一度会津若松市市民文化祭行事の一環に組み入れられている市内高校書道連合会（会工・若商・若女）の連合会による連合展（市公民館）に出品し、市内高校生は書道祭典ともいふべき行事を目標に頑張っている。

勿論、美術愛好者・一般から注文を集めています。今回、9月10日・16日、大町中央画廊で第四回展は過去の実績と日頃の努力が実を結び佳い結果をもたらした。大盛況好評を博しました。上手に描くだけでなく時代性にマッチした物の見方と考え方、そして美の追求心、じつとものを見つめる忍耐力と物品を愛する暖い心情を育ててゆきたいものと美術部員フアイトを燃やして頑張っています。



大会前の練習風景（9.10頃）

英会話部

我々会工英会話部は、部員十名で英会話に取り組み、活動内容として、英文タイプライターの練習、カセットによるヒアリングの練習をはじめ、その他、文法に関する英作文など、備品を活用して勉強しております。また、ES Sという若松市内の高校の英語部の集いが三ヶ月に一度あり、そこで私たちは他校生と活発な意見をかわしあっています。その内容は、ゲームなど、いろいろおもしろいことをやりながら英語の実力をつけています。我々は、国際社会に通用する人間を目指して来年も、今年同様やるつもりです。

社会部

現在社会部は、二年生四人、一年生八人の総勢十二人を中心となり活動を進めているが、部屋は十二人と少人数を感じさせない程、活気に満ち真剣な中に楽しい雰囲気がかもし出している。

活動内容は、来年の会工祭を目標に「会津」という大きなテーマを掲げ、会津の一円、郷土の知識を深めると同時に、当時の人々の心に触れようと各自が努めている。あとわずかにせむた会工祭を意義あるものとするために、全員がこの大きな目標に向かって一致団結し、難関突破に懸命である。

計算尺部

計算尺部の活動内容を簡単に報告いたします。

部員は、三年生がいなく二年生十五名、一年生三名、計十八名の人員構成ですが、実際の活動は十二名で、部員の連帯感は大変よくまとまっております。

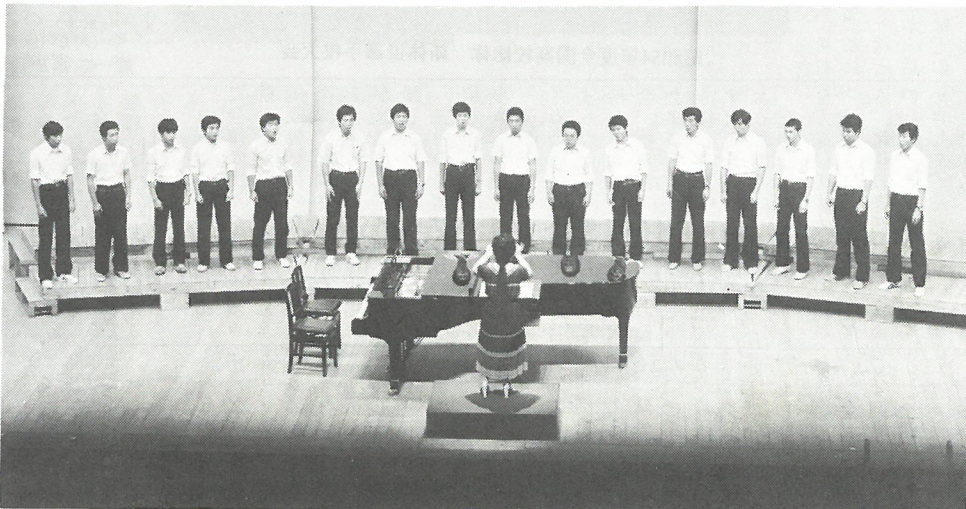
毎日の活動は、放課後三時三十分より一時間三十分練習にあてています。今年の夏休み中には、合宿を実施

七月に合宿練習、続いて福島市での県発表会参加、部員一同体力と美声を十分に発揮した。現在は一年生を

中心に、十一月の校内ミニ文化祭にむけ毎日練習に励んでいる。

音楽部

会工音楽部顧問を担当することになり、早くも半年過ぎ、男子校独特の気風にもようやく慣れてきた。四月新入部員勧誘、三年生七名は部の存続を架けて奮闘成果は十名の才能豊かな一年生確保、部に活気が出てきたのもその為か。二年生がいらないのは寂しいが、有望な一年生に期待をかけ、合唱練習開始。十七名の会工男声合唱団は、月水金の放課後音楽室に集合する。



昭和54年度福島県高等学校音楽祭



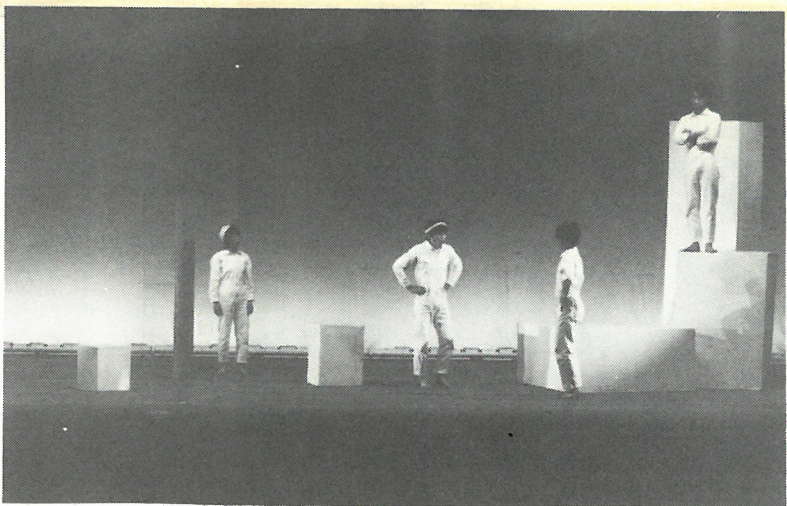
昨年県大会準優勝時の参加メンバー

自然化学部

今、自然科学部は秋の合宿も終り、去年から始まった校内文化祭のための写真整理に追われている最中です。我部は日常的活動として星の観測、観察や写真撮影などを行う夜間観測や天気図作成などがあります。今後は来年行われる会工祭についての準備を、三年生に前回のことなどいろいろ聞き参考にしながら、二年と一年が協力し合いやっていこうと思っています。来年は、今までよりいっそう意義あるものとして、会工祭に参加したいと考えています。

演劇部

県大会出場の一コマ



校外活動としては「春の発表会」「秋のコンクール」に参加し、他校生との交流を通して毎回気力に満ちた演劇を上演しております。その結果、一昨年の五十二年度の地区コンクールでは「優秀賞」を獲得し、県大会出場も果たしました。

校内活動も重視し、大教室を借りての自主発表会を行ったり「校内ミニ文化祭」に参加したりもしています。毎年部員が集まらず、いつも十名前後で活動しているため、まだまだ不十分な面がありますが、楽しく厳しい高校演劇を目指して、毎日活動しております。

アマ無線部

無線部の今年の活動は、例年に比べて活発だと思つた。第一にオールJAコンテストだ。全国七十九位というのには、決して悪いものではないだろう。東北では七位。また、アワードの獲得もその一つである。今はまだ、AJD、WAJJA、JCGなど現在JCC400、JCGなども申請中だ。さらには、国家試験への準備があげられる。毎日放課後に、新しい問題と前の日の問題の解答とをコピーして、受験する部員に配布している。日に日に正解の数が増えているようだ。一人でも多く合格して、YCBの活動をより活発にしてほしいと願う。

委員会

会工の教養の泉となるべく、図書館活動を続ける図書委員会。学校新聞「鶴友」の発行会。学校新聞「鶴友」の発行会。学校新聞「鶴友」の発行会。

同好会

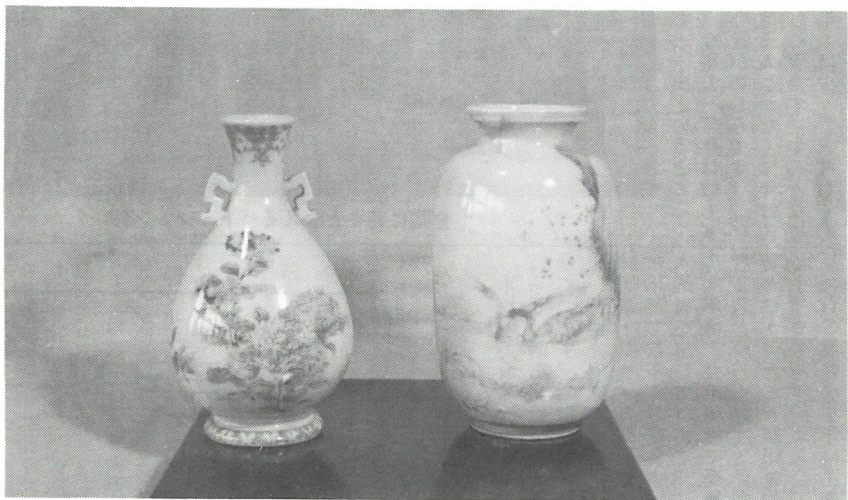
「日本の美」を求めて、心技一体となるべく、お手前の研さんに励む茶道同好会。和奏会(市内六校)。クラス会(全会津)の参加と奉仕活動を実践として活躍するJ・R・C同好会。

編集後記

会津盆地を囲む山々も紅葉はじめ、観光シーズンの幕開けとなり、遠来の観光客の訪れもあわただしくなりました。会報第三号が、総会開催を記念して発行することと出来まして喜ばしいことと思っております。

これをお読みになる同窓生の諸兄に、懐かし母校を思い出して頂くように創立からの姿を第一面に掲げました。皆さんもこの何れかの校門をくぐって、通学されたことでしょうか。現在は鉄筋四階建をはじめ、千二百名の生徒が学ぶ校舎が整然と立ち並び、東北一の工業高校の威容を誇っております。

陶磁器資料 本郷焼 内生文八作(明治中期)



また今年は、運動クラブの意気も盛んで、いくつかのクラブは全国大会に出場し、上位進出を決め、会工健児の気魄を全国に示しております。また学芸班の活動も活発でそれぞれの分野で活躍していることは、同窓生として誠に喜ばしい限りです。創立以来八十年の星霜を迎えようとするこのような母校の発展ぶりに拍手を送り、共に喜び合おうではありませんか。会報の発行や総会を開催するについて、会員諸兄から寄せられるご支援、ご協力に深く感謝している次第です。母校の発展と、同窓会の繁栄を祈念して後記とします。

499000 285500 8500 499000 280500 218500